

會務報告

第 27 卷 第 2 號 昭和 16 年 2 月

役員會

第 20 回理事會 (昭. 15. 12. 23)

出席者: 吉田副會長, 和田理事外 4 名, 中村書記長外 3 名

報 告

1. 西部支部役員變更。
2. 西部支部昭和 15 年度事業報告及總會記事。
3. 第 3 回年次學術講演會を昭和 16 年 10 月 31 日より 3 日間福岡市に於て開催。
4. 中部支部第 4 回役員會及石川部會記事。
5. 土木土法案調査委員會委員長より構造土法提案理由書別紙(省略)の通り報告。
6. 滿州土木學會は社團法人に認可せられたり。

議 事

1. 名譽會員の推舉に關しては次回更に協議すること。
2. 入退會を別記の通り承認。
3. 構造土法案の措置に關しては次回更に協議すること。
4. 土木學會規則中特別員の入會資格に關しては定款改正委員會に諮り研究すること。
5. 防空土木委員會委員長及委員の選定は和田, 稻葉(通)兩理事に一任。

第 21 回理事會 (昭. 16. 1. 13)

出席者: 中村會長, 谷口, 吉田兩副會長, 和田理事外 5 名, 中村書記長外 3 名。

議 事

1. 防空土木委員會委員長及委員に次の諸君を依頼すること。

委員長 辰馬 鎌藏君

委員 石川榮耀君, 石塚久展君, 磯谷道一君, 今井 周君, 今井 哲君, 岡田 實君, 金子源一郎君, 河口協介君, 菊池 明君, 黒田 靜夫君, 小林紫朗君, 佐田昌夫君, 春藤眞三君, 末森猛雄君, 鈴木雅次君, 高木敏雄君, 高橋嘉一郎君, 高橋三郎君, 沼田政矩君, 野口貢之助君, 藤井眞透君, 町田 保君, 水谷當起君, 日黒清雄君, 森田三郎君, 山崎匡輔君, 吉田 直君

2. 杭の支持力公式調査委員會助手に西章君外 1 名を囑託すること。

3. 昭和 16 年度支部交附金を別表(省略)の通り

決定。

4. 昭和 15 年度本會事業報告別紙(省略)の通り決定。

5. 構造土法案は建築土法案との對抗上今議會に提出することとし提案議員に松山常次郎氏を依頼すること。

6. 定款改正委員會報告の定款及規則改正案に就き審議し原案の通り決定。

7. 土木學會名譽會員に關し慎重審議の結果次の 3 君を推舉することに申合せり。

野村龍太郎君, 田邊 朗君, 古川阪次郎君

8. 通常總會は来る 2 月 17 日(月曜日)午後 5 時帝國鐵道協會に於て開催することに決定。

第 10 回常議員會 (昭. 15. 12. 23.)

出席者: 吉田副會長, 稻葉(權)常議員外 9 名, 中村書記長外 3 名

報 告

1. 中部支部長に田淵壽郎君再選。
2. 入退會を別紙(省略)の通り承認。

議 事

1. 昭和 16 年度收支豫算を別紙(省略)の通り承認。
2. 昭和 15 年度追加豫算を別紙(省略)の通り承認。
3. 昭和 15 年度豫算の一部を別紙(省略)の通り次年度に繰越を承認。
4. 通常總會を昭和 16 年 2 月 17 日鐵道協會に於て開催すること。
5. 特定期間(自昭和 16 年 1 月 1 日至同年 12 月 31 日)中入會金を免除することとし之を總會に附議すること。

6. 防空土木委員會を設置することとし別紙要綱(省略)を決定, 委員長及委員の選定は理事會に一任。

7. 昭和 15 年度中の一時納付會費は之を基金に組入れることに決定。

8. 本會基金中現金にて預入れのものは最も堅實なる信託會社に信託預金とすることに決定。

總務部記事

土木學會文化映畫委員會 (昭. 15. 9. 4.)

出席者: 青木委員長, 瀧尾委員外 5 名, 徳丸君,

小野寺庶務主任

1. 横田、片平兩委員作成に依る横濱シネマより依頼の“水”及新興キネマより依頼の“浚渫船”シナリオに就き審議し之を印刷に附し兩社に提供すること

2. 三國々道映畫のタイトルを挿入せり。

土木學會文化映畫委員會 (昭. 15. 9. 20.)

出席者: 瀧尾委員外 4 名, 金森前委員長, 徳丸君, 小野寺庶務主任。

1. 金森前委員長の上京を機會に本委員會の事業に就き意見の交換をなせり。

土木學會文化映畫委員會 (昭. 15. 11. 20.)

出席者: 青木委員長, 瀧尾委員外 4 名, 徳丸君, 小野寺庶務主任。

1. 映畫會開催に就き協議し次の決定を見た。

日 時: 12 月 18 日 (水) 午後 6 時

會 場: 蠶絲會館

講 演: 水豊堰堤の話 横田周平君

映 畫: 水豊堰堤工事 5 卷

水禍天津 2 卷

三國々道 1 卷

嵐に花は散らず 6 卷

2. コンクリートの文化映畫シナリオ作成に就き協議。

3. 本委員會を爾後毎月 (役員會ない日) 月曜日に開催すること。

土木學會文化映畫委員會 (昭. 15. 12. 2.)

出席者: 青木委員長, 瀧尾委員外 5 名, 徳丸君, 小野寺庶務主任。

1. 映畫會上映する映畫水豊堰堤工事及水禍天津を試寫すること。

2. プログラムの外に外國映畫“スエズ”を追加上映すること。

3. 次回には黄土に關するシナリオ作成に就き協議すること。

土木學會文化映畫委員會 (昭. 15. 12. 16.)

出席者: 青木委員長, 瀧尾委員外 5 名, 徳丸君, 小野寺庶務主任。

1. 映畫, 水豊堰堤工事, 水禍天津の試寫をなし, プログラムの外“スエズ”追加上映に就き協議。

2. 映畫會に於ける各受持委員を決定。

第 88 回講演及映畫會 (昭. 15. 12. 18.)

會 場: 蠶絲會館

講 演: 三國々道の話 内務技師 水山嘉徳君

映 畫: 1) 鴨綠江大水力發電工事 5 卷

2) 三國々道 (第 1 輯) 1 卷

3) 水禍天津 2 卷

4) 嵐に花は散らず 6 卷

5) スエズ 12 卷

出席者: 480 名

晩 餐 會 (昭. 16. 1. 13.)

定款改正委員會委員並役員詮衡有志招待

會 場: 丸之内會館

出席者: 辰馬委員長, 鈴木委員外 2 人, 山崎匡輔君外 9 名。

中村會長, 谷口, 吉田兩副會長, 和田理事外 5 名, 田淵中部支部長, 中村書記長外 3 名。

編 輯 部 記 事

第 1 回會誌編輯委員會 (昭. 16. 1. 15.)

出席者: 廣瀬委員長, 安藝委員外 11 名, 左合編輯主任外 3 名。

1. 第 27 卷第 1 號登載原稿謝禮を決定

2. 第 27 卷第 3 號登載原稿を左の如く決定

講演登載可能なる場合

講 演: 日本防空の一般の態勢に就て (會, 春藤眞三), 帝都防空の改造の一方策 (會, 石川榮耀)

論說報告: 海工用巨大塊體に關する研究 (會, 鮫島茂), 中空壓縮材の挫屈に關する理論的研究 (I. II) (會, 横田周平)

講演登載不可能なる場合

論說報告: 海工用巨大塊體に關する研究 (會, 鮫島茂), 中空壓縮材の挫屈に關する理論的研究 (I. II) (會, 横田周平), 連続アーチの計算 (會, 小野一良)

彙 報: 東京府敷島橋工事報告 (會, 南保賀), 凍上氷の外観的分類と其の生成過程に關する私見 (准, 小川新市)

抄 録: 厨芥と下水汚泥との併合消化, 木造物に於ける継ぎ合せ連続梁, 無鐵筋丁形梁, サイプレス島に於ける鐵鑛積出設備, 音速測深器を用いた潮汐及び波浪の測定, プタベスト北港計畫, リオンに於ける新港「エドヴァール・エリオ」, Colorado 河に於ける流砂問題, プエノスアイレスに於ける地下ガレーチ, 棒狀基礎の計算, Missouri 河の航路擴充並びに維持, 高堰堤取水口のキャピテーション, 擴張すべき水力發電所の調壓水槽に關する研究, 壁面曲率の亂流發生に及ぼす影響

3. 昭和 15 年度土木賞牌受賞論文を審議決定す

調 査 部 記 事

コンクリート調査委員会（第 30 回堰堤コンクリート小委員会）（昭. 15. 12. 12.）

出席者：沼田委員長，内村委員外 12 名。

協議事項

第 18 條は保留，第 33，37 條のコンクリートの打設の速度に關しては更に資料を集め再審議すること
第 38 條，第 44 條，第 46 條，第 52 條に付審議

コンクリート調査委員会（第 31 回堰堤コンクリート小委員会）（昭. 15. 12. 14~15.）

出席者：沼田委員長，内村委員外 12 名。

14 日午後

1. 第 18 條粒度を決定。
2. 現場に於けるコンクリート洗ひ分析試験標準方法（案）を逐條審議。

3. 第 3 讀會案により第 17 條まで逐條審議。

15 日午前

1. 第 18 條 (2) の標準及び (3) を削除。
2. 第 21 條の次に 1 條を設け水の最大使用量を挿入すること。
3. 第 22 條第 2 項を削除。
4. 第 26 條の次に 1 條を設けミキサの容量を挿入すること。
5. 第 37 條迄審議。

15 日午後

1. 第 38 條より第 60 條迄逐條審議。
2. 第 39 條第 2 項を削除。
3. 第 48 條第 6 項を削除。
4. 第 50 條第 1 項を削除。

コンクリート調査委員会（第 5 回一般構造物コンクリート小委員）（昭. 16. 1. 14.）

出席者：沼田委員長，安藝委員外 9 名，芝地君，磯崎君，近藤泰夫君

1. 第 32 條打継目より第 42 條型枠の取外しまで逐條審議。

杭の支持力公式調査委員会（昭. 15. 12. 13.）

出席者：青山委員長，匹田委員外 4 名，布施君，小野寺庶務主任。

1. 布施（黒田代理），當山，坂本，片平各委員より調査資料の検討結果に就き報告。
2. 以上の検討結果より，委員会として大體の結論を得，當山，坂本，片平，三委員により結論起草をなすこととせり。
3. 最後結論取纏めのため，助手 2 名を囑託すること，入選は當山，片平兩委員に一任，助手に對しては學會の前例により最後に謝禮すること。

水理公式調査委員会（第 3 回河川部會）（昭. 15. 12. 20.）

出席者：安藝，本間兩幹事，渡部委員外 3 名，11 月に於ける第 2 回部會以後に於ける各委員擔當項目の調査を持寄り討議し研究せり。

法 制 部 記 事

土木士法案調査委員会（昭. 15. 12. 11.）

出席者：眞島委員長，阿部，高橋（甚）兩委員，小野寺庶務主任。

協議事項

1. 眞島委員長の草案に成る構造士法提案説明書「土木建築事業に公認技術家を必要とする理由及其名稱と資格」を各委員に廻付し意見を求め慎重審議の結果別紙省略の通り決定し會長に報告することとす。

中 部 支 部 記 事

第 4 回役員會（昭. 15. 9. 20.）

出席者：田淵支部長，北澤前支部長，城戸評議員外 12 名，比企野幹事長，今泉幹事外 3 名。

議 事

1. 次期總會開催地に關する件
2. 評議員改選の件
3. 昭和 15 年度事業報告の件其他

中部支部石川部會

出席者：田淵支部長外 53 名。

會場：金澤市縣會議事堂。

- 講演：(1) 試験鉤光に就て 永井時一君
(2) 軌道構造に就て 小林勝素君
(3) 北陸地方の天氣癖 佐藤秀雄君
(4) 國土計畫に就て 兼岩傳一君

- 映畫：(1) 滿鐵列車 (2) 歐洲動亂と日本
(3) ヒットラーアフタバソ (4) 感謝の光
(5) モンテナイナ大陸横斷

西 部 支 部 記 事

第 2 回總會（昭. 15. 11. 23~24.）

出席者：142 名。

會場：宮崎市宮崎縣教育會館。

順序：（第 1 日）宣言，來賓祝辭，事業及會計報告
支部選舉結果報告（後記），新任支部長挨拶
並役員の指名（後記），講演，聖蹟巡拜，懇親會（後記々事）

（第 2 日）聖蹟巡拜並土木工事見學，參加會員北班 60 名，南班 21 名，（後記々事）

役員改選の結果： 支部長（當選）三瀬幸三郎君
 商議員（新任）山口十一郎君， 鮫島 茂君，
 尾崎義一君， 出島一宏君， 綿貫保一君， 田中
 熊彦君， 稻田 陸君， 豊田哲夫君，
 幹事長松尾守治君， 幹事水野高明君， 四十萬
 小祐君， 金津尙一君， 森 賢君，

總會記事： 別記

そ の 他 記 事

土木學會誌第 26 卷第 12 號を發行成規の手續を了
 し會員に配布せり。

入 會 及 轉 格 會 員 (敬稱を略す)

特 別 員 (入 會)

合資會社泉屋組	泉 屋 爲 次 郎 (3級)			
株式合資會社地崎組	地 崎 宇 三 郎	地 崎 喜 太 郎	西 田 庄 太 郎 (3級)	
名古屋鐵道株式會社	藍 川 清 成	須 田 博	永 田 民 也	新 谷 達 郎 (2級)
鐵道工業株式會社札幌營業所	岩 瀬 彌 五 郎	比 留 間 保 之	笠 松 時 雄 (3級)	

會 員 (入 會)

小 川 琢 磨	瀨 井 敦 雄	平 田 六 郎	伴 潔
---------	---------	---------	-----

准 員 (入 會)

栗 野 正 英	飯 田 正 一	上 野 重 威	江 口 正 博	江 藤 大 四 郎	神 田 公 磨
川 手 晃	木 村 義 雄	高 田 義 夫	高 野 瑞 穂	高 橋 一 郎	龍 元 光
中 川 蒨	中 村 勝	中 武 三 男	永 井 三 也	仁 科 武 廣	根 本 三 郎
檜 原 泰 一 郎	平 手 久 之 助	藤 塚 太 郎	藤 原 秀 雄	前 田 謙 介	山 本 高 司

學 生 員 (入 會)

小 野 長 一	大 野 穰 次	奥 野 正 和	長 野 敏 三	平 尾 重 信	藤 本 廣 實
數 本 哲 夫	神 田 精 夫	坂 田 敏 雄	仙 波 昌 明	森 田 鳩	森 田 國 暢
仁 田 一 郎					

會 員 (轉 格)

太 田 榮 次	角 田 敏 雄	森 田 健 造	屬 秀 三
---------	---------	---------	-------

准 員 (轉 格)

佐 藤 榮

土 木 學 會 々 員 數

(昭. 15. 12. 23 現在)

會 員	准 員	學 生 員	特 別 員	贊 助 會	合 計
3 591	5 070	1 381	107	26	10 175

會 員 松田貞治郎君昭和 16 年 1 月 5 日逝去せられたり、本會は
 靈前に弔詞を呈し恭しく哀悼の意を表したり。

會 員 橋本正平君の訃報に接す、本會は恭しく哀悼の意を表す。

准 員 菅野 正君の訃報に接す、本會は恭しく哀悼の意を表す。

學 生 員 平山 博君、藤田盛光君の訃報に接す、本會は恭しく哀悼の意を表す。

西部支部總會記事

輝く皇紀 2600 年の佳き年を記念する爲皇祖發祥の聖地宮崎縣下に 15 年度支部總會を開催す。時恰も宮崎縣 2600 年記念事業の一たる八紘之基柱成りて除幕式典の舉行せらるゝ直前に當り市内外は勿論縣下舉げて奉祝の氣に満ち瑞氣溢れ、節秋の空高く晴れて總會並に巡拜には絶好の日和、定刻前より續々參集受付係多忙を極む。會するもの總數實に 142 名。

I 總會、於宮崎市宮崎縣教育會館 (11. 23 午前 9~12 時)

1. 宮城遙拜、默禱
2. 開會之辭 (寺田商議員)
3. 宣 言 (安藏幹事長)
4. 來賓祝辭 (長谷川宮城縣知事)
5. 事業並會計報告 (赤岩幹事)
6. 支部長選舉結果報告 (西田支部長)
7. 新任支部長挨拶並新役員指名 (三瀬新支部長)
8. 講 演
 - a. 西部支部地方に於ける土木工事
西田前支部長
 - b. 宮崎郷土史
日高宮崎中學校長
9. 閉會の辭 (大野幹事)

II、晝食、於縣公會堂ホール

III 聖蹟巡拜 (11. 23 午後 1~5 時)

1. 宮崎神宮參拜 (一同迎壽の盃拜受)
2. 八紘之基柱 (記念寫眞撮影、工事寫眞欄参照)
3. 西都原聖蹟 (白太鼓節賀演)

IV 懇親會、於宮崎市紫明館 (11. 23 午後 6~10 時)

午前の總會に引續き午後の聖蹟巡拜に感激を新にした一同は美しき暮色漸く迫る頃靜かなる清流大湍の河畔紫明館に再び集合懇親の宴を催す。參會者百餘名、先づ三瀬新支部長の挨拶について來賓代表宮崎縣遠山總務部長の謝辭あつて開宴、數々の餘興に歡談哄笑興趣盡きず時の移るを忘る、西田前支部長の發聲にて宮崎縣の萬歳を、寺田宮崎縣土木課長の發聲にて土木學會西部支部の萬歳を三唱して盛會裡に散會す。

V 聖蹟巡拜並土木工事見學 (11. 24)

- A 北班 (參加者 60 名)
 - 宮崎驛發午前 6 時 51 分
 - 富高驛着午前 8 時 18 分
 - 塚原堰堤視察
 - 岩屋戸發電所工事見學
 - 富高驛着午後 5 時解散
- B 南班 (參加者 21 名)
 - 大湍驛前發午前 9 時
 - 鷗戸神宮參拜
 - 青島視察
 - 宮城歸着午後 3 時 10 分解散

VI 感 謝

本總會並に巡拜見學旅行に際し多大の御援助と御便宜を賜つた宮崎縣、宮崎市及び關係諸會社に對し茲に記して深厚なる感謝の意を表す。斯くして皇紀 2600 年の佳年に當り本總會を盛大に而も有意義に記念し得たことを會員一同と共に欣快とする次第である。

正 誤 訂 正 表

擁壁に作用する地震時土圧の分布状態に関する実験的研究

(第 27 卷第 2 號所載)

頁	行	誤	正
88 103	圖-10 (本文の) 下より 5 行目	判對	2 個の圖版の上下を入換る。 判斷

昭和 15 年 12 月 25 日印刷 昭和 16 年 2 月 1 日發行 (定價金 1 圓)

東 京 市 牛 込 區 南 町 33 番 地

編輯兼發行者 中 村 孫 一

東 京 市 神 田 區 美 土 代 町 16 番 地

印 刷 者 島 連 太 郎

東 京 市 神 田 區 美 土 代 町 16 番 地

印 刷 所 三 秀 舎

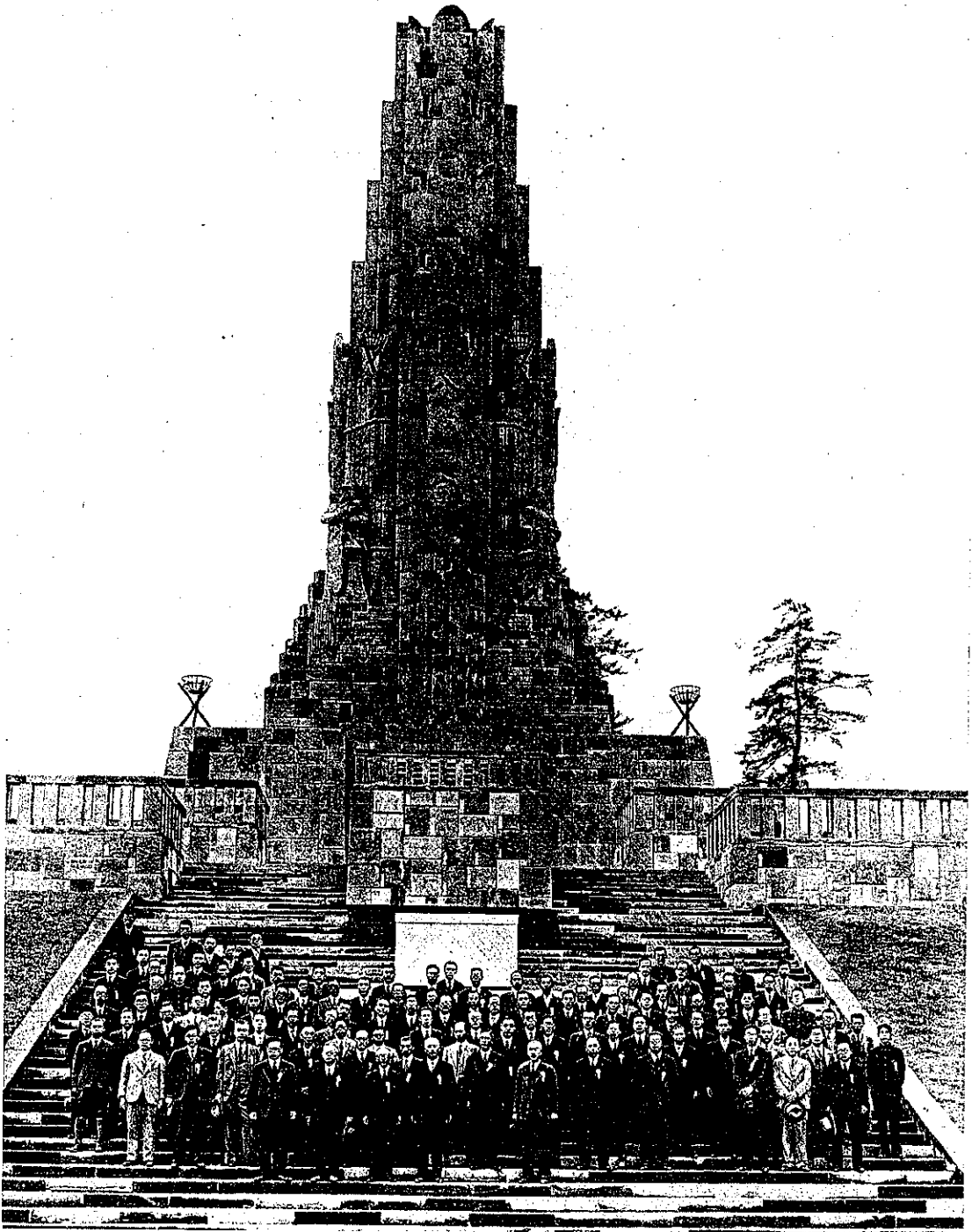
東 京 市 麴 町 區 丸 内 3 丁 目 6 番 地

發 行 所 社 團 法 人 土 木 學 會

電 話 丸 内 (23) 3945 番, 振 替 口 座 東 京 16828 番

西部支部第2回總會記念寫眞

(皇紀二千六百年十一月二十三日 八紘之基柱前に於て撮影)



會 告

土木學會第 3 回年次學術講演會の論文募集

昭和 16 年 10 月 31 日より下記の如く福岡市に於て第 3 回年次學術講演會が開催されますから、多數會員の論文御提出を希望致します。

- 日 時: 第 1 日 昭和 16 年 10 月 31 日 (金曜日)
午前 講演, 午後 講演
- 第 2 日 昭和 16 年 11 月 1 日 (土曜日)
午前 講演, 午後 見學 (福岡市附近), 懇親會
- 第 3 日 以後見學旅行
- 第 1 班 北九州方面 (約 1 日)
- 第 2 班 大牟田—雲仙—長崎方面 (約 2 日)
- 第 3 班 熊本—阿蘇—別府方面 (約 2 日)
- 第 4 班 鹿兒島—霧島—宮崎方面 (約 2 日)

講演會場: 九州帝國大學工學部内

論文提出に関する注意

1. 論文提出の申出 論文御提出の方は昭和 16 年 5 月 31 日迄に其の題目を九州帝國大學土木教室内講演委員會宛に御申出のこと。
2. 論文要旨の提出 論文要旨は昭和 16 年 7 月 31 日迄に御提出のこと。要旨は字數 600 字以内のこと (土木學會誌原稿用紙 2 枚以内とし、圖面は縮小した時を考慮し本文中に含める)。

講演に関する注意

3. 講演時間 1 論文に付 20 分以内とす。但し超過する場合は論文要旨御提出の際御申出のこと。
4. 圖面及表 講演の際使用する圖面、寫眞及表等にして豫め當方に於ての整理を希望せらるゝ方は提出順序を明記して昭和 16 年 10 月 15 日迄に九州帝國大學土木教室内講演委員會宛御送附ありたし。但し圖面及表の大きさは大體 80 cm × 105 cm 程度とす。
5. 其の他 映寫設備等御必要の向は論文要旨御提出の際申出ありたし。
6. 本講演に関する事務はすべて下記の處にて取扱ふ。

九州帝國大學工學部土木教室内

土木學會第 3 回年次學術講演會講演委員會

DOBOKU-GAKKAI-SI

(JOURNAL OF THE CIVIL ENGINEERING SOCIETY)

VOL. XXVII, NO. 2, FEBRUARY, 1941.

CONTENTS

Proceedings of the Society	Page 5
Papers	
Experimental Study on the Distribution of Earth Pressure acting on a Vertical Wall during Earthquakes. <i>By Haruo Matuo, C. E., Member.</i>	83
Tamping test of soils for judging soil properties and specifying execution. <i>By Kanau Hosino, C. E., Member.</i>	107
On the Three-span selfanchored Suspension Bridge of Lohse System. <i>By Atusi Hirai, C. E., Assoc. Member.</i>	118
Notes on Matters of Interest	137
Abstracts of Selected Articles	160
Current Notes	183
Patent News	186
New Publications	188

OFFICE

No. 6, 3-TYŌME, MARUNOUTI, KŌZIMATI-KU, TŌKYŌ, JAPAN.